

平成28年度 学校評価結果

愛媛県立松山聾学校

【評価項目の評価規準】
A 十分な成果があった
B かなりの成果があった
C 一応の成果があった
D あまり成果がなかった
E 成果がなかった

※評価アンケート等の結果から総合的に判断する。

※評価項目別評価欄の数値は、今年度(上段)・昨年度(中段)・一昨年度(下段)の評価結果である。

【アンケート結果の評価基準】
アンケート評価項目得点の平均値により評価する。
◎: 平均値 > 1.00 ○: 1.00 ≥ 平均値 > 0.00 △: 平均値 ≤ 0.00
(上段から保護者、児童生徒、教職員)

【アンケート評価項目(得点)】	
そう思う(2点)	だいたいそう思う(1点)
あまりそう思わない(-1点)	まったく思わない(-2点)

領域	評価項目	具体的目標	評価	アンケート結果		評価	考察・改善方策																							
				集計結果	評価																									
学習指導・言語指導	個に応じた指導の充実	一人一人の特性や学習の状況を考慮した、創意工夫のある授業実践を行うとともに、各部年間2回以上の研究授業を行い、基礎学力の定着・向上を図る。	A 今 1.23 ↑ 昨 1.12 ↑ 一昨 1.14	<table border="1"> <caption>アンケート結果 (個に応じた指導の充実)</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思う</th> <th>だいたいそう思う</th> <th>あまりそう思わない</th> <th>まったく思わない</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>22</td> <td>44</td> <td>40</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>23</td> <td>15</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>32</td> <td>83</td> <td>70</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない	無回答	保護者	22	44	40	0	0	児童生徒	23	15	3	0	0	教職員	32	83	70	0	0	保◎ 1.20 生◎ 1.33 教◎ 1.15	「授業の充実」をマニフェストに掲げ、年間14回の研究授業を行う等の取組を行った。一人一人の特性や学習の状況に応じた授業について授業研究会を行い、部を越えて意見を交換する等して、学校全体で取り組んだ。また、幼小中高の見通しを持った指導の在り方についても情報交換し、共通理解に努めた。今後は、アクティブラーニングの授業研究を進めるとともに、授業評価の改善を図り、学力の定着・向上が児童生徒・保護者にとって実感できるものとなるよう努めたい。
	対象	そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない	無回答																								
	保護者	22	44	40	0	0																								
児童生徒	23	15	3	0	0																									
教職員	32	83	70	0	0																									
読書指導の充実	読書感想文・感想画の作成、多読者表彰等の本に親しむ活動を推進し、読書指導の充実を図る。個々の発達に応じた図書の利用を進め、一人平均月3冊・年間30冊以上の読書冊数を目指す。	B 0.92 ↑ 0.83 ↑ 0.73	<table border="1"> <caption>アンケート結果 (読書指導の充実)</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思う</th> <th>だいたいそう思う</th> <th>あまりそう思わない</th> <th>まったく思わない</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>25</td> <td>34</td> <td>11</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>18</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>35</td> <td>75</td> <td>120</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない	無回答	保護者	25	34	11	0	0	児童生徒	18	9	11	4	0	教職員	35	75	120	0	0	保◎ 1.04 生○ 0.62 教◎ 1.09	教員対象の選書会、学芸員によるブックトーク、おすすめの本の紹介を行い、児童生徒が興味関心を持てるような図書の購入に努めた。本年度の読書冊数は1月末現在で1,136冊である。昨年度と比べて増えている。一人当たり年間30冊以上という数値目標は、4.2%が達成しているが、中・高等部の読書冊数は少ない。理由として、障がいの重複化が進み、生徒の実態から見て読書が難しいことや、学年が進むにつれて部活動や進路を決定する時期などで、読書時間の確保ができていくことが考えられる。今後は、児童生徒の実態に応じた個別の読書指導を行うなどしていきたい。	
対象	そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない	無回答																									
保護者	25	34	11	0	0																									
児童生徒	18	9	11	4	0																									
教職員	35	75	120	0	0																									
専門性及び資質の向上	年間5回以上の授業参観を行い、研究実践や情報交換を推進するとともに、教職員の専門性・資質向上を図り、授業力や指導力を高める。特別支援学校教諭免許状(聴覚障がい領域)取得率85%以上を目指す。	A 1.23 ↑ 1.04 ↑ 1.03	<table border="1"> <caption>アンケート結果 (専門性及び資質の向上)</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思う</th> <th>だいたいそう思う</th> <th>あまりそう思わない</th> <th>まったく思わない</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>31</td> <td>58</td> <td>13</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>23</td> <td>16</td> <td>30</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>71</td> <td>103</td> <td>80</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない	無回答	保護者	31	58	13	4	0	児童生徒	23	16	30	0	0	教職員	71	103	80	0	0	保○ 0.99 生◎ 1.40 教◎ 1.28	年度初めに、ベテラン教員による授業を中心とした基礎学習講座を3回実施するとともに、年間3回の授業参観週間を設け、専門性や資質の向上に努めた。他学部の授業参観を積極的に行い、幼小中高のつながりを考えたり、日頃の授業を見直ししたりする機会となった。今後は、参観授業に対する感想や意見を学校全体で共有し、更なる向上に努めたい。保護者評価につなげるためには、保護者との情報交換・情報共有が必要である。聴覚障がい領域の免許状保有率は85.7%となり、更に上昇した。未取得者も、免許取得のための講習を受講中であり、免許取得への意識を持って取り組んでいる。	
対象	そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない	無回答																									
保護者	31	58	13	4	0																									
児童生徒	23	16	30	0	0																									
教職員	71	103	80	0	0																									
学校評価委員会からの評価・提言等				提言等に対する改善方策等																										
<p>中高生は、スマホの利用が多いことも、読書離れの一因ではないか。聴覚障がいについての研修は行われているが、重複障がいの幼児児童生徒が増えているため、知的障がいや肢体不自由などの研修も増やしてほしい。授業については、学力の向上を目指して、聴覚障がいや特性に配慮した「分かる」授業を学校全体で取り組んでほしい。</p>				<p>聴覚障がいについての専門性の向上を目指して、新しい知識や情報を得るため、外部の専門家等との連携を取りながら研修を行ってきたい。また、知的障がいや肢体不自由、発達障がい等についても、校外の研修の機会を活用するとともに、「職朝ワンポイント」等で、全校の教職員が学ぶ機会を持つように努めたい。さらに、一人一人に応じた「分かる」授業が行えるよう、授業研究や授業に関する意見交換を行う機会を活用し、授業改善に努めたい。</p>																										

領域	評価項目	具体的目標	評価	アンケート結果		評価	考察・改善方策
				集計結果			
特別支援教育体制	キャリア教育の充実	望ましい勤労観・職業観の育成を図るため、キャリア教育を全教職員の共通理解の下に推進する。また、保護者や関係諸機関との連携を図り、進路指導・支援の充実を進め、高等部生徒の進路実現率100%を目指す。	B 0.77 ↑ 0.66 ↑ 0.80		保○ 0.54 生○ 0.83 教○ 0.94	キャリア教育の推進を目指し、進路だよりやキャリア教育通信、研修会などで情報発信を行ってきた。しかし、進路に関する情報提供について、特に低年齢の部の保護者は不十分だと感じているということが分かった。情報提供が、社会に出る間際の生徒に関するものに偏りがあったためではないかと思われる。幼稚部・小学部の子供たちのキャリア発達に関する情報提供も、充実させていきたい。	
	自立活動の充実	一人一人の教育的ニーズや希望を踏まえ、個別的教育支援計画や自立活動個別の指導計画を作成し、教育活動全体を通じて自立活動の指導の充実を図る。	A 1.19 ↑ 1.13 ↑ 1.10		保◎ 1.06 生◎ 1.31 教◎ 1.20	児童生徒は自覚を持って自立活動に取り組み、保護者、教職員ともに自立活動の指導の充実に関しては一定の評価をしていることから、自立活動の重要性や指導の在り方について理解が得られているといえる。保護者の中には「思わない」と答えた回答もあったが、懇談等を利用して説明の機会を持ち、個別的教育支援計画や自立活動個別の指導計画の作成の意義と効果について理解を得るようにしたい。	
	聴覚障がい教育のセンター的機能の充実	ネットワーク会議等を通して関係諸機関との連携を深め、協働による支援の充実・発展を目指す。直接相談、ホームページや広報誌を通して、聴覚障がいに関する教育、医療、福祉に関する情報を校内外に提供する。	B 0.65 ↑ 0.82 ↑ 0.75		保○ 0.23 教◎ 1.07	例年同様にネットワーク会議や支援会議等を開催して、関係機関との連携を図った。本校がコーディネートするこれらの会への期待は大きく、支援に関する情報交換や方向性の確認等で多くの成果を得ることができた。しかし、それらの成果を広める活動が十分ではなかったため、今後は、ホームページや広報誌『自立活動だより』等を通して、計画的に発信するようにしていきたい。	
		地域の聴覚障がいのある幼児児童生徒の希望や実情に沿って、300件以上の教育相談や40件以上の訪問支援を行う。サマースクールや幼児体験学習、公開講座、学校公開等への参加を呼び掛け、本校の教育活動への理解が得るように努める。	B 0.87 ↑ 0.92 ↑ 1.06		保○ 0.44 教◎ 1.30	昨年度に引き続き教育相談、訪問支援とともに、数値目標を大幅に上回る見通しとなった。特に訪問支援については約2割の増加となっており、ニーズの高さがうかがえる。今後は、本校の子供が居住地の学校で交流を行うときの理解啓発も含めて進めることを考慮し、本校の子供たちへの支援の充実と併せて、より広い範囲への理解啓発を進めていくことを考えていきたい。	
学校評価委員会からの評価・提言等				提言等に対する改善方策等			
進学の実績があまりないため、聾学校からは大学進学できないというイメージがある。外部からの教育相談等のニーズは高いようだが、生徒数の減少は続いている。卒業生の離職への対応など、卒業生へのアフターケアも大切である。				一人一人に応じた学習の機会を保障し、進学希望にも対応できる進路指導を行ってほしい。本校が行っている聴覚障がい教育のセンター的機能へのニーズは、今後も強くなっていくと思われる。本校の子供たちが居住地で交流する機会に障がいについての理解啓発を行う等、聴覚障がいや、本校の子供たちに関する地域への理解啓発も大切にしたい。アフターケアを継続し、必要な支援を行いたい。			

領域	評価項目	具体的目標	評価	アンケート結果		考察・改善方策
				集計結果	評価	
生徒指導	安全教育の充実	緊急時対応マニュアルを実態に応じて改善するとともに、地域合同での実施を含め、年間4回以上避難訓練を行う。防災教育、交通安全教育等の具体的な活動を通して、安全への理解を深めるとともに、保護者との連携を図る。また、医療機関との連携により、医療的ケアを安全に実施する。	A 1.40 ↑ 1.31 ↑ 1.19		保◎ 1.13 生◎ 1.90 教◎ 1.16	全体的に安全教育について一定の評価が得られているので、引き続き分かりやすく、理解が得られる取組を行っていききたい。「地域合同防災避難訓練」の計画・実施に向け、地域や保護者との連携を密にした活動を深め、様々な災害時の対処法が身に付くように、安全教育の充実に努めたい。医療的ケアについては、新しい対象児が入学し、新任の看護師も含めた複数の看護師が日替わりで勤務することになったが、連携が取れており、スムーズに実施できている。今後も、緊急時対応マニュアルを確認するなど、より安全な実施に向けて、絶えず検証して進めていきたい。
	人権・同和教育の充実	「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見に努め、学校全体で組織的に対応する。年間3回以上の人権学習を実施するとともに、人権・同和教育だよりを発行し、幼児児童生徒、教職員・保護者への啓発を行う。	B 0.94 ↑ 0.83 ↑ 0.79		保○ 0.69 生○ 1.00 教◎ 1.12	今年度は、性的マイノリティと人権についての研修会を外部講師を招いて行う等、教職員への啓発に力を入れた。保護者、児童生徒への啓発は、担任任せになることが多く、評価に結びつきにくい。今後は幼稚部、小学部低学年の子供たちや保護者に、人権同和教育担当者を中心にアプローチしていきたい。また、各担任への研修も充実させ、教職員全体の人権感覚の向上に向けて、学校全体で取り組んでいく必要がある。何より幼児児童生徒が笑顔で学校生活を送れるよう、一人一人を大切にすることを学校全体で進めていきたい。
学校評価委員会からの評価・提言等				提言等に対する改善方策等		
災害は、いつ起こるか分からない。災害発生時の一次避難場所が公園で、二次避難場所が本校である。一時避難から移るタイミングなどを検討していきたい。少人数であるので、一緒に育てており、異学年の子供たちもとても仲が良いようである。日常生活の中で、人権感覚を養ってほしい。				地域の防災については、本校が指定避難所であり、地域の自主防災会や防災士の方々と連携を取り、緊急時の避難がスムーズに行えるように進めていきたい。幼稚部から高等部まで、一人一人の子供たちが、安心して学校生活を送れるように、研修等の機会を活用して教職員への啓発、人権感覚の向上を図り、人権・同和教育を更に進めていきたい。		